

学報

2013年 5月 Vol.669



平成25年度入学式（4月7日）

平成25年度岐阜大学入学式及び岐阜大学大学院入学式	1
平成25年度岐阜大学大学院連合農学研究科・同連合獣医学研究科入学式	4
教育学部学生の金武李佳さんが「模擬国連」に参加	4
応援奨学生決定通知書交付式を実施	5
みず再生技術研究推進センター開所式及び特別講演を開催	6
平成25年度寒剤・高圧ガス取扱作業者に対する安全衛生教育講習会を開催	6
薬品管理支援システム取扱説明会を開催	7
海外留学フェアを開催	7
岐阜大学旧早野邸セミナーハウス開所式を挙行	8
平成25年春の生存者叙勲 - 本学関係者2名が受章 -	8
表彰受賞者	9
産学連携の実施状況	9
外国人研究者の受け入れ	9
諸会議	10
主要日誌	11
人事異動	《学内限定》12

平成25年度岐阜大学入学式及び岐阜大学大学院入学式

岐阜大学入学式を、4月7日（日）10時30分から、また岐阜大学大学院入学式を、同日9時15分から、それぞれ長良川国際会議場において行った。

学部入学生への告辞で森学長は、「岐阜大学は「学び、究め、貢献する大学」をモットーとし、特に「社会に貢献する人材を育てること」を誇りとしています。皆さんも本学で学ぶことによって、立派な社会人になるべく、勉学に励んでください」と新入生を激励した。

入学者数は、次のとおり。



【学部】

教育学部	255名		
地域科学部	106名	地域科学部3年次編入学	10名
医学部	187名	工学部3年次編入学	33名
工学部	522名	応用生物科学部2年次編入学	5名
応用生物科学部	191名	応用生物科学部3年次編入学	10名
		計	1,319名

【大学院】

教育学研究科修士課程	55名	医学系研究科博士課程	35名
教育学研究科教職大学院課程	20名	工学研究科博士前期課程	306名
地域科学研究科修士課程	20名	工学研究科博士後期課程	22名
医学系研究科修士課程	3名	応用生物科学研究科修士課程	86名
医学系研究科博士前期課程	10名	連合創薬医療情報研究科博士課程	5名
		計	562名

平成25年度岐阜大学入学式 学長告辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。本日にここに岐阜大学に入学してこられた1,319名の皆さんに対し、岐阜大学のすべての教職員を代表して心から歓迎の意を表します。入学の喜びと勉学への意欲に燃える皆さんを柳戸キャンパスに迎えることは私共岐阜大学の教職員にとって大きな喜びであります。皆さんの岐阜大学入学の機会に、まず、これまで皆さんを支えてこられた保護者の方々や諸先輩に心よりお祝いを申し上げます。

本日より皆さんの新しい大学生としての生活がスタートします。大学では学問をまだ解決されてない問題として学習、研究致します。それ故、大学での勉学は、常に自主的な学習、研究の姿勢が必要となります。この研究の姿勢は新しい概念や法則の発見を見出すことに繋がります。一方、大学は知的能力の涵養を行う場であるだけでなく、人間形成の重要な場でもあります。今日から始まる大学生活は長い生涯の目的

とあり方を構築する重要な時間であります。従って、勉学に励むだけでなく、人間性を深める芸術や読書に勤しみ、体力増強に繋がるスポーツ活動も積極的に行なって頂きたいと思います。健全な肉体と精神を有することは生涯社会で活躍する上で極めて重要なことでもあります。

岐阜大学は「学び、究め、貢献する大学」をモットーとし、特に「社会貢献する人材を育てること」を誇りとしています。皆さんも本学で学ぶことによって、立派な社会人になるべく、勉学に励んで頂きたいと思います。

今日、厳しい状況が続く社会の中で、国立大学は国民に大学の重要性や意義を理解して頂くため、どのような人材をいかに育ててきたか、今行っている教育にどのような特徴があるか、その将来像はどうか、を示す作業を行っております。岐阜大学の歴史の始まりは1873年であります。2011年に日経産業新聞に紹介された帝国データバンクによれば、創設年の最も古い大学は1580年の立正大学で、岐阜大学は4位となっております。

ます。岐阜大学のいずれの学部もそれぞれの歴史を有しています。卒業生も実に多様な分野で活躍をされています。一部の国においては岐阜大学留学生の同窓会組織もできております。このような本学の歴史的な絆は皆さんの今後の活躍を大いにサポートするものと信じております。皆さんはこれから大学生活を始めることになりますが、是非、自分の志、夢を大事にしてください。簡単に自らの才能を見限らないことであります。勿論、進路を軌道修正する柔軟さや何かを捨てる決断も必要であります。いずれにせよ、自分の将来を切り開くには地道な努力の継続が必要であることはいうまでもありません。一人の身近な例を紹介致します。

世界最小最強セッターと言われている日本女子バレーの竹下佳江さんです。彼女はロンドンオリンピックの銅メダリストですが、厳しいスポーツ人生を送ってきました。一つの理由は159センチというバレーの世界では小柄な体格です。そのため、彼女は他人の3倍は練習をしたといいます。ワールドカップを戦った同僚の一人は朝4時から練習をしている彼女を見ています。4時から練習を開始するには3時半には体育館に着いていなければなりません。2000年6月、彼女を擁した日本チームはシドニーオリンピックの最終予選の出場が決まるクロアチア戦をフルセットの末、落しました。東京五輪から続いてきた五輪出場が閉ざされた瞬間でした。竹下は悩み、バレーボールを辞める決心をします。新しい仕事を見つけるためにハローワークへ通います。いろいろ探しているうちに「これだ」と思ったのが介護福祉士です。長年のセッター経験から、相手が何を求めているか察知できるし、体力にも自身がある。資格を取るための準備を始めたそうです。バレーの話題すら避けていた彼女が再びバレーへ戻ることになったのはある実業団チームの部長の強い説得です。彼女の再度の決断でした。

さて、現在の国際化時代に異文化、他文化を理解し、学ぶことは必要であります。世界では現在、6000の言語が話されていますが、その半数は絶滅が危惧されています。2000年以上の歴史を持つ言語はギリシャ語、ヘブライ語、バスク語、ラテン語などわずかで、カメルーンのルオ語は現在一人の話し手しかいないとされています。主要言語のうち、最も使用されているのは英語であり、国際的な会議や学会の公用語も英語であることが多く、世界中の航空管制官は英語を使用しています。ヨーロッパでは母国語が英語ではない国でも大学、研究所などでは英語が共通言語として使用されており、アジアの国々でもその傾向が広まりつつあります。従って、このグローバル時代においてはコミュニケーションに欠かせない英語などを在学中に



鍛えるのは大切だと思います。

今、我国は歴史的にもあまりみられなかったような転換期にあると思います。政治、経済、産業どの分野をとっても難しい局面を迎えております。加えて、我国には東日本大震災に代表されるように自然災害との戦いの必然性があり、産業の発展に必要な天然資源の不足や急激な少子・高齢化の様な社会問題も存在します。従って、この難局を克服し、さらなる国の発展を得るには外交、経済、産業などいずれの問題の議論にも皆さんを含めて国民が積極的に参加することが必要と考えます。日本の優れるものの代表に美しい国土と共に勤勉・実直で知識欲に富んだ国民性があります。特に、この国民性を背景とする学ぶ姿勢こそがこれからも日本の強さを生み出すエネルギーだと思います。どうか充実した大学時代を過ごし、この国をリードする様な人材に成長して頂きたいと願います。私共も縁あって、皆さんを受け入れる限り、出来るだけ良い教育環境を作ることには最大限の努力を致します。皆さんも本学学生として悔いの無い時を送って頂きたいと願います。

平成25年度岐阜大学大学院入学式 学長告辞

岐阜大学大学院への入学おめでとうございます。本日ここに大学院に入学してこられた562名の皆さんに対して岐阜大学のすべての教職員を代表して心から歓迎の意を表します。入学の喜びと勉学への意欲に燃える皆さんを柳戸キャンパスに迎えることは私共岐阜大学の教職員にとって大きな喜びであります。これまで勉学を支えてくださった御家族の方や恩師の方々に、心よりお祝いを申し上げます。

岐阜大学には5つの学部の大学院前期課程、2つの学部の大学院後期課程がある他、岐阜大学を基幹校とする3つの連合大学院があります。本日、連合大学院の内、岐阜大学と岐阜薬科大学とで構成される連合創薬医療情報研究科に入学する方は、教職大学院に入学

される社会人の方と共に出席されています。それ故、細江岐阜市長、勝野岐阜薬科大学長に列席を頂いております。

私は大学院の時期というのは短いながらかけがえない時であると思います。高度な知識を学び自由な研究を行うほか、社会や学問の世界に飛び出す準備期間として、真実を求める科学に関するしっかりとした考え、思想を育てる時であると思います。

さて、御承知とは思いますが、メンデルはエンドウが一貫して緑色の豆からは新しい緑色の豆が出来、黄色い豆からは黄色い豆が出来、遺伝形質は対をなし、各々は親から互いに独立に遺伝することを1865年に論文として発表しています。メンデルの法則の本質的な生物の性質は遺伝因子によって保持され、その性質の発現は数学的な組み合わせと優性、劣性の関係で決まるということであり、簡単な区別出来る形質を選び、博物学的な生物学に統計学という数学を導入したことが画期的であるとされています。しかし、メンデルの研究は彼が死ぬまで正しい評価を受けることはなく、彼の論文の多くは破棄されます。

ダーウィンは1859年に「種の起源」を発表します。ダーウィンの進化論は、変異による優れた個体、自然淘汰、種の進化という3段階論法であります。ダーウィンの進化論が当時の生物学、社会、文化に与えた衝撃はメガトン級であり、キリスト教社会から強い怒りをかったのはご承知のとおりです。ダーウィンを支持する人達と宗教界との間では何度となく裁判が繰り返されます。1925年のアメリカでの裁判ではダーウィンの進化論を教えたハイスクールの教師Jスコープは100ドルの罰金刑を受けます。これらは歴史的に科学が社会からさまざまな評価を受けてきたことを如実に示しています。

ところで、皆さんは岐阜大学の第4代学長の今西錦司先生という方をご存知でしょうか。ダーウィンの進化論は突然変異と自然淘汰を二本の柱とする理論ですが、今西先生は「棲み分け」と「種社会」を中心的な概論とする独自の進化論を展開します。今西先生は京都の鴨川に生息しているヒラタカゲロウの幼虫について調べ、川の流れの速さに応じて、流れの中心から、4種類のヒラタカゲロウが順に並んで分布していることを発見しています。彼はカゲロウの幼虫が、川の流れの速さに応じて分布している様な自然現象を「棲み分け」とよびます。彼はさらに「棲み分け」というのはカゲロウの幼虫の個体が棲み分けているのではなく、種が棲み分けていることだとして、棲み分けしている種を「種社会」とよびます。今西進化論のポイン

トは進化の基本単位は個体ではなく種であり、自然淘汰では種は進化しないとするものでダーウィンの進化論とははっきり異なります。今西論では、種の多様化を説明するために、自然淘汰とか適者をもってこなくても、単に生物はその生存する生態的な空間を拡大していったといえ良いとしています。

このように、多くの先人達によって革命的な科学的思考が生まれ、そのような科学の進歩によって、今日の社会的発展がなされてきました。皆さんも既存の説を鵜呑みすることなく、他者からの研究評価を恐れずに、まずは自分を信じて研究を進めてください。さりながら、限られた大学院の時代に、すべて、好きな研究を好きなように進められるというわけにはいきません。自分がやりたい研究と指導教員から与えられる研究テーマのミスマッチのようなこともあると思います。私自身の大学院時代の経験ですが、与えられた研究テーマに最初当惑しておりましたし、どう進めてよいか分かりませんでした。与えられた研究テーマには取り組んでおりましたが、途中から面白いと思いはじめた別の研究も黙ってしておりました。いずれにせよ、研究が最初からスムーズに進むことはないでしょうし、科学の遂行に必要な探索とか考察が不十分では良い研究成果は得られません。2010年クロスカップリング反応でノーベル化学賞を受賞した根岸博士は科学者の発見の前提には10項目があるのではないかと述べています。ニーズ、願望、知識、意思力、アイデア、判断、不屈の行動力、作戦、系統だった探索、幸運がそれらであります。彼はその中でも系統だった探索が最も中心にあるのではないかと述べています。但し、何かの発見とか発明というものにはちょっとした道草といふか遊び心のようなことがきっかけとなることもあると思います。今日のIT産業の多くが多分にスタンフォード大学やマサチューセッツ工科大学などの優秀な学生の遊びから始まったと言われております。このことは科学の発展と自由な心の相関性を示しています。

いずれにしても、科学の進歩と人類の叡智の両者が世界の発展に貢献してきたことは事実であります。このことは研究倫理と研究における社会正義の重要性を示唆しています。それ故、研究が何よりも地球の平和や人類の福祉に役立ち、社会的にも有用であることが望まれます。皆さんの大学院の生活が世界の将来に繋がる実りの多いものであることを願うと同時に、この大学院の時代が気高い人格の形成の一翼を担う時期ともなることを望みます。

平成25年度岐阜大学大学院連合農学研究科・同連合獣医学研究科入学式

本学が設置大学となっている両研究科の入学式を、4月12日（金）14時から本学講堂において挙行し、連合農学研究科博士課程 14名、連合獣医学研究科博士課程 21名、計35名の新入生を迎えた。



学長告辞



入学生代表宣誓

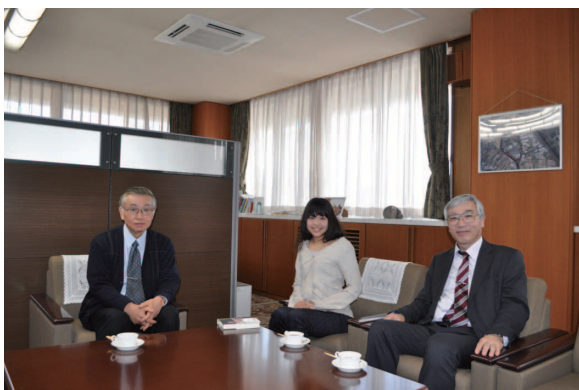
教育学部学生の金武李佳さんが「模擬国連」に参加

3月26日～29日に、「New York Global Young Leaders Summit International Model United Nations 2013（通称：模擬国連）」がアメリカのニューヨークで開催され、本学教育学部学生の金武李佳さんが参加した。

この模擬国連は、世界中の参加学生がそれぞれ、ある国の大使の役割を演じ、担当国の政策や歴史、外交関係などに照らし合わせて、特定の議題について、実際の国連における会議と同様に議論、交渉する会議であり、世界中から約500人が参加した。この会議は、国際問題への理解や交渉術の深化を図ることが目的とされている。金武さんは、モロッコ大使役で参加し、議論するテーマごとのグループに分かれ、特にエイズと貧困、情報コミュニケーション技術の活用等について議論し、最終的に決議案を作成した。

金武さんは帰国後、4月5日（金）、森学長に、「モロッコについては、事前にモロッコ大使館を訪問し、経済情勢や文化などについて情報収集し、準備をしました。模擬国連では、英語で話すというだけでなく、自分の考えを述べ、議論をするということで、難しい部分もありましたが、他国の学生と交流し、異文化について知る良い機会になりました」と報告した。

学長室では、模擬国連の様子など撮影された写真を見ながらの和やかな報告会となった。



学長報告（森学長（左）、金武さん（中央）、
廣田教学・附属学校担当理事）



模擬国連の様子

応援奨学生決定通知書交付式を実施

本学は、創立60周年を契機に立ち上げた岐阜大学基金による事業の一環として、人物及び学業成績において優れ、他の学生の模範となる学生に奨学金を支給することにより、学業を応援し、優れた人材を育成することを目的に、応援奨学生制度を実施している。

4月8日（月）、今年度の奨学生19名を決定し、決定通知書交付式を行った。

交付式では、森学長から決定通知書が交付され、「これを契機に各々の分野で活躍し、役に立つ人材に育ってほしい。また、今後も岐阜大学基金を活用して、学生への支援をさらに広げていきたい」と挨拶があった。

応援奨学生を代表して、工学部の清水大輔さんが「応援奨学生に選出していただき光栄に思います。いただいた奨学金を有効に活用し、勉学や研究に励み、日々精進していきたい」と抱負を述べた。



決定通知書を受け取る学生



抱負を述べる清水さん

みず再生技術研究推進センター開所式及び特別講演を開催

4月9日（火）、平成25年4月に設置した岐阜大学みず再生技術研究推進センター開所式及び特別講演を開催した。

このセンターは、水環境の保全、特に浄化槽等の分散型污水处理施設の機能向上や、それらの放流先水路及び受容水域の水質向上につながる調査研究を推進するため、財団法人岐阜県環境管理技術センターとの連携のもと、設置したものである。

当日は太田維久岐阜県議会議員等、多数の来賓を迎え、森学長は「本学は環境科学に力を入れており、この連携が水環境改善に貢献できるよう期待している」と挨拶した。その後、渡邊昇みず再生技術研究推進センター長が本センターの今後の活動と概要を説明した。

引き続き開催された特別講演では、玉川福和全国環境整備事業協同組合連合会会長から「みず再生処理施設」と題する講演が行われ、参加者は熱心に耳を傾けた。

本センターでは、研究を通じて、地域の水質環境の保全と浄化槽整備区域住民の生活環境の更なる改善に寄与していく。



看板を除幕した森学長（右から3人目）ら



センターの概要を説明する渡邊センター長

平成25年度寒剤・高圧ガス取扱作業者に対する安全衛生教育講習会を開催

本学では、毎年4月初旬に教職員、大学院修士課程の学生及び大学4年生を対象に、寒剤・高圧ガス取扱作業者に対する安全衛生教育講習会を実施しており、今年度は4月9日（火）に開催した。

生命科学総合研究支援センター機器分析分野の近江靖則准教授及び応用生物科学部の西津貴久准教授が、寒剤・高圧ガスを使用する作業場の安全確保や取扱作業者等に対する事故防止の方法を説明した。

今回の講習会では、教職員・学生約300名が受講し、講習会で学んだ知識を実験・実習に生かしていくこととしている。



講話する近江准教授と受講者



会場の様子

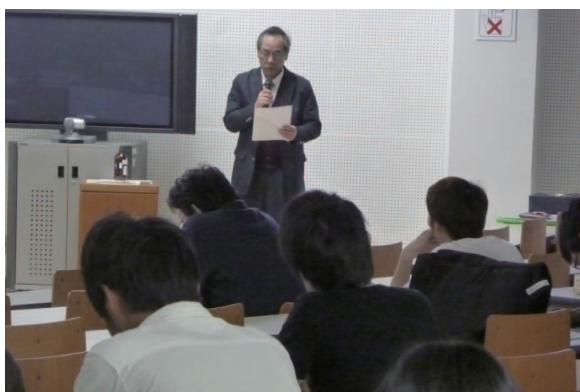
薬品管理支援システム取扱説明会を開催

本学では、薬品を適切に管理するため薬品管理支援システムを導入している。毎年、学内で薬品を使用する教職員及び学生を対象に本システムの取扱説明会を実施しており、今年度は、4月17日（水）～18日（木）に開催した。2日間にわたり、同様の内容で3回開催し、昨年度を大きく上回る365名の参加があった。

当日は、清水安全衛生推進室長の挨拶の後、工学部の竹内教授、施設環境部職員及びシステム業者の関東化学(株)より大学における薬品管理の重要性、管理方法及び本システムの使用方法について説明があった。

本学では、本システムを平成17年4月より運用を開始し、これまでもシステムの普及に努めてきた。現在は研究室での利用が進み、薬品登録数は5万本を超えている。

この説明会を通して、薬品管理の重要性を再認識することができ、今後もより一層適切な薬品管理が期待される。



清水安全衛生推進室長の挨拶



説明を聞く教職員及び学生

海外留学フェアを開催

4月24日（水）、海外での活動に興味を持つ新入学生を中心に、留学制度や海外経験に関する情報を提供し留学の促進を図ることを目的として、海外留学フェアを開催し、約80名の学生の参加があった。

このフェアでは、小見山章理事（学術研究・情報・国際戦略担当）の挨拶の後、3月にニューヨークで行われた「New York Global Young Leaders Summit International Model United Nations 2013（通称：模擬国連）」に参加した教育学部4年の金武李佳さんから体験談が話された。引き続き、協定大学との交換留学制度における募集時期や奨学金制度、今年度より導入された危機管理システムなどについての説明の後、学生の休業期間を利用して実施する予定の5つの短期留学プログラムについて、各担当者から紹介があった。フェアの終了後は、各プログラムの担当者と金武さんが会場に残り、参加学生からの個別相談に応じた。



模擬国連での体験談を話す金武さん

岐阜大学旧早野邸セミナーハウス開所式を挙

4月26日(金), 大垣市長や多くの地域住民の方々の参加のもと, 岐阜大学旧早野邸セミナーハウス開所式を挙

行した。旧早野邸セミナーハウスは, 旧中山道沿いの大垣市昼飯町にある古民家を活用した同学の新たな活動拠点として誕生した。

このセミナーハウスは, 本学第7代学長早野三郎氏ゆかりの家を, ご子息早野龍五氏(東京大学大学院理学系研究科教授)から寄附されたものである。

セミナー室, 展示室, ミーティング室を備え, 学術研究のフィールドワークの活動拠点や歴史的資料等の展示, 地域へのサービスの提供・交流の場として活用していく。

開所式では, 森学長が「教育研究の場として利用することはもとより, 地域に開かれた場となつてほしい」と挨拶し, 来賓の小川敏大垣市長, 早野龍五氏の令夫人である早野由理氏から祝辞があつた。続いて, 吉村理事(総務担当)が本セミナーハウスの概要を説明し, 森学長らがテープカットを行い, 開所を祝つた。



テープカットする関係者ら



開所式後の施設見学の様子

平成25年春の生存者叙勲 —本学関係者2名が受章—

平成25年春の生存者叙勲が4月29日に発表され, 本学関係者では次の方が受章されました。

教育研究功労

瑞宝中綬章

田 中 榮 一 氏

(名誉教授, 元工学部教授)



田 中 榮 一 氏

文部行政事務功労

瑞宝小綬章

村 山 正 信 氏

(元事務局長)



村 山 正 信 氏

表彰受賞者

平成25年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰（国際貢献部門）

受賞者：柳井 徳磨 応用生物科学部教授

功績概要：野生動物保全の国際協力に積極的に取り組み、自然環境の保全に尽力

受賞日：平成25年4月23日

産学連携の実施状況

○共同研究

(平成25年4月契約分)

部 局 名	研究代表者	企 業 等 名
工 学 部	山 田 宏 尚	日立建機（株）
〃	服 部 敏 雄	富士変速機（株）
〃	〃	（株）ユーシンテクノ
〃	河 瀬 順 洋	（株）ブラザーエンタープライズ
〃	小 林 智 尚	中部電力（株）
〃	川 崎 晴 久	Precision Machinery Research & Development Center（台湾）
応用生物科学部	長 岡 利	（株）秋田屋本店
〃	矢 部 富 雄	（株）秋田屋本店

○受託研究

(平成25年4月契約分)

部 局 名	研究代表者	企 業 等 名
工 学 部	野々村 修 一	国立大学法人東京工業大学
〃	高 羽 浩	大学共同利用機関法人自然科学研究機構

外国人研究者の受け入れ

受入部局	氏 名 (国 名)	所属・職名	期 間	研 究 題 目
応 用 生 物 科 学 部	Naglaa M. S. Hassan (エジプト)	サウスバリー大学 助講師	25. 4. 1 ～ 27. 3. 31	植物細菌病とウイルス病の交差防除 機構に関する分子生物学的研究
流域圏科学 研究センター	Md. Abdus SALAM (バングラデシュ)	バングラデシュ農業大学 教授	25. 4. 1 ～ 25. 9. 30	魚と野菜の共生システム内における 栄養塩の動き

諸会議

◇ 第1回教養教育推進センター業務実施委員会

4月8日(月)

議 題

1. 教養教育ロードマップ2013について

◇ 第393回役員会

4月11日(木)

議 題

1. 教育職員の人事(医学系研究科:准教授2,
医学部附属病院:准教授1)について
2. ポイント外教育職員の配置について

◇ 第1回部局長・部長会

4月11日(木)

事 項

1. 平成24年度内部監査報告について
2. 平成25年度岐阜大学活性化経費(教育)の公
募について
3. 学長のリーダーシップによる教育研究の活性
化について

◇ 第1回教養教育推進センター企画運営委員会

4月15日(月)

議 題

1. 平成25年度組織目標について
2. 教養教育ロードマップ2013について

◇ 第1回大学教育委員会

4月16日(火)

議 題

1. 岐阜大学学位規則の一部改正について
2. 岐阜大学教職課程支援室規程の一部改正につ
いて
3. 平成25年度大学教育委員会に設置する専門委
員会及びワーキンググループの委員について
4. 平成25年度前期の授業料免除に係る留年・修
業年限超過者の取扱いについて
5. サークル設立承認について

◇ 第394回役員会

4月18日(木)

議 題

1. 平成25年度会計監査人候補者の選定について

◇ 第113回教育研究評議会

4月18日(木)

議 題

1. 学長選考会議委員の選出について
2. 学生の無期停学処分解除について
3. 岐阜大学学位規則の一部改正(案)について
4. 教育職員の任期を定める規程の一部改正につ
いて
5. 岐阜大学名誉博士称号授与について
6. 経営協議会委員(外部委員)の交代について

◇ 第395回役員会

4月18日(木)

議 題

1. 岐阜大学学位規則の一部改正について
2. 教育職員の任期を定める規程の一部改正につ
いて

◇ 第1回国際戦略本部会議

4月24日(水)

議 題

1. 副本部長等の選出について
2. キャンパス国際化ビジョン2020について

◇ 第1回入学試験委員会

4月24日(水)

議 題

1. 委員長代理について
2. 平成26年度入試以降の入学者選抜検討スケジ
ュール(案)について
3. 平成26年度入学者選抜試験における情報処理
日程(案)について
4. 平成26年度入学者選抜に向けた入試広報(案)
について

主要日誌

月 日	行 事 名
4 / 7	平成25年度岐阜大学入学式及び岐阜大学大学院入学式
8	第1回教養教育推進センター業務実施委員会 応援奨学生決定通知書交付式
9	みず再生技術研究推進センター開所式及び特別講演 平成25年度寒剤・高圧ガス取扱作業者に対する安全衛生教育講習会
10	看護学科・看護学専攻教授会議（医） 教授会・代議員会（工）
11	第393回役員会 第1回部局長・部長会
12	平成25年度岐阜大学大学院連合農学研究科・同連合獣医学研究科入学式
15	第1回教養教育推進センター企画運営委員会
16	第1回大学教育委員会 研究科委員会（連創）
17	教授会・研究科委員会（教・地） 医学研究科・医学科教授会議（医） 薬品管理支援システム取扱説明会（～18日まで）
18	第394回・第395回役員会 第113回教育研究評議会
19	代議員会（連農）
24	第1回国際戦略本部会議 第1回入学試験委員会 教授会（流域） 海外留学フェア
26	代議委員会（連獣） 岐阜大学旧早野邸セミナーハウス開所式